

年齢とともにお口の機能も低下します。

年齢とともに体の機能はだんだんと低下していきます。それはお口の中に関しても例外ではなく、お口にも様々なトラブルが起きてきます。お口の健康は体の健康と大きく関わっているため、注意が必要です。特に高齢の方の場合は周囲の人もお口の健康に注意を払ってあげることが大切です。

年齢とともに起こりやすいお口のトラブル

歯に汚れが溜まりやすくなる

年齢とともに唾液の分泌が落ちてしまい、お口の中が乾燥しがちになります。唾液の量が減ると、お口に食べかすや歯垢が停滞しやすくなります。



歯周病が悪化する

歯周病は30~40代くらいから始まること多いですが、それがだんだんと悪化し、グラグラしてきたり、噛めない、抜けてしまう、というようなトラブルが起こるようになります。



むし歯が増える

唾液の分泌が減ってしまうことから歯垢が停滞し、むし歯にもかかりやすくなります。



粘膜トラブルが起こりやすくなる

唾液が少なくなることから、唾液の粘膜保護作用がうまく働かず、口内炎、口角炎を起こしやすくなります。

入れ歯が合わなくなる

入れ歯は使っているうちに歯茎が痩せたり、歯が磨り減ってだんだんと合わなくなってきました。入れ歯が合わないまま使っていると、歯茎はさらに痩せてしまい、粘膜にも傷がつきやすくなります。



口臭がきつくなる

唾液が少なくなり、食べかすや歯垢がたまることでお口の中が細菌の温床になってしまいます。また、きれいに手入れできていない入れ歯からも匂いが出やすくなります。



むせやすくなる

高齢者になるとお口の筋力低下などにより、食事の際などにむせやすくなります。



被せ物や詰め物をした歯も要注意



一度治療したところが再度むし歯になってしまうことを「2次カリエス」と言います。2次カリエスは詰め物や被せ物の劣化や、歯にくっつけているセメントの劣化、そして不十分な歯磨きが重なることで起こります。多くの歯科材料は年数がたつと劣化し、歯

との間に隙間や段差ができてしまいます。その部分に歯磨き不足などで歯垢が溜まっているとむし歯ができてしまうのです。大人のむし歯の多くは、この2次カリエスによるものだと言われています。治療後も定期的な健診は大切です。